

2014 年辟雍会全国代表者会議議事要録（案）

日 時：平成 26 年 11 月 1 日（土）13:00～14:35

場 所：東京学芸大学第一会議室

出席者：〔大学〕 出口利定、増田金吾、長谷川正、鎌田直純、
〔辟雍会〕 荒尾禎秀、鷺山恭彦、丹伊田敏、臼木信子、山本一雄、
馬淵貞利、田上和子、松村茂治、佐藤節夫、小澤一郎、小森伸一、
二宮修治、前田稔、荒川悦雄、岩藤英司、石川裕司、石井健、
八木澤弘子、後藤満
〔社団法人〕 市川雅美、高橋武郎、加藤正克、
〔地区理事〕 鶴丸泰生、種市哲、竹内仁志、武藤葉子、宮地彌典、
〔支部代表〕 八田明夫、矢野政弦、石井康雄、萱野政徳、木澤英二、勝田敏勝、
宰相裕一、田中信也、小松原修、柏瀬省五
〔オブザーバー〕 佐々木一隆、久保正彦、

1 開会の言葉

松村茂治幹事長から、2014 年辟雍会全国代表者会議の開催が宣言され、司会を担当することの紹介があった。

2 鷺山恭彦会長挨拶

昨年、10 周年を迎え、今年は次の十年に向けての 1 年目である。恒例の活動と共に、各県の支部作りが大きなテーマである。今年に入って栃木、熊本で設立され、1 週間後には大分で出来る予定になっており、年明けには埼玉で動きが始まる。

47 都道府県の中で 26 の道府県をカバーしており、これから設立の可能性のあるのは、秋田、山形、福井、山口、香川、愛媛、宮崎、福岡である。それ以外の所は、十分な手づるを欠いており、北から、福島、宮城、茨城、そして東京をどうするかという問題があり、更に長野、岐阜、愛知、三重、徳島、長崎、沖縄である。動いて下さる方を是非ご紹介いただきたい。

大学側の変化として新課程の教養系が廃止の方向で、四半世紀の歴史を閉じることになる。英・数・理・国・社といった学校の教科以外の、国際・地域・表現・環境といった専攻で構成された課程で、受験生の評判もよく、学生や教員に新風を吹き込み本学活性化に大きな役割を果たしているだけに残念である。

財務省が「教員養成の任務の大学に、教員養成を必須としない課程があるのはお金の無駄だ」と考え、文科省が「ミッションの再定義」で締め付け、執行部の苦労は大変だったと思うが、辟雍会に対しては、卒業生や在校生から、反対の声を上げたい、辟雍会も動いて欲しいという要望が強かった。辟雍会は大学を支える立場だから態度表明はしなかったが、教養系廃止の方向には深い疑念を持っていた。専門性が高く教育の観点を持った卒業生こそ、今日必要とされているのではないのか。教員養成に純化して国民教育に特化すると留学生が入りにくくなり、国際化に取り残された大学になるのではないのか。5-6 年経つと教員需要は減ってくるのに、教員養成課程の定員を増やすのはなぜなのか、等々の疑念である。

学校教育だけでは、今の日本の教育問題は解決できない。「国民総ぐるみ」が求められ、いろいろな職種の専門家が教育的観点に立って、問題に取り組むことが要請され、まさにそこに教養系人材こそフィットしている。青少年教育振興機構の仕事で、自然体験教育、芸術体験教育の現

場に行くが、会社に属し、NPO に属して、そうした活動に従事している卒業生によく出会う。映画づくりの指導などは、学校の先生ではできず、教養系の人材が脚本づくり、映像づくりを指導し、作品製作を通じて子どもたちは、飛躍的に成長している。学校教育のバーチャルな知識・情報だけではない、こうした生きた教育活動こそ今後の鍵となるのに、国は何を考えているのか判らない。

辟雍会では、学校の先生方の結集と共に、それ以外の分野で多彩な活動を展開されている卒業生を大きく取り込んで、両者の交流を促進し、そこから生まれてくる新しい展望に期待したいと考える。教養系の卒業生は25年の歴史の中で1万人を超えている。全国規模で移動している方が多く、連絡がつきにくいのが、こうした皆さんの結集がこれからの10年の辟雍会の活動の鍵となる。

今日のこの会議には、佐賀から小野田さんが出席されている、3月に村松前学長と佐賀辟雍会の創立集いに伺った。そこでは、教員、放送関係者、民間の塾の経営者などの多彩な集まりで、刺激的な情報交換、人生交換の場になっていた。多様性を持った辟雍会活動の典型で、こうした交流が日本の明日の教育を豊かに支えて行くという確信を持った。

今ひとつ課題は、卒業生全体が集まって在校生とも交流できる場の創設である。今開いているこの全国代表者会議は、学園祭の時に行っているため、学生の活動とは溶け合っていない。そこで創立記念日の5月末あたりに辟雍会の催しを行って、卒業生相互の交流と学生と卒業生との交流会が出来ないかと模索している。

在校生と若い卒業生の交流企画「クロス」は、アフターピアというサークルと協力で行い、第一回は300名ほどの規模で交流会をもてた。そうした実践例をもとにしながら、新たに構想したいので、ご意見をいただきたい。

皆さんの知恵をお借りつつ、新しい10年を鋭意進めて行くので、よろしくお願い致します。

3 出口利定東京学芸大学学長挨拶

大学は厳しい状況にあり、人文社会科学系の学長が沖縄に集まり、今後どの様に戦うかについて会議を開いたばかりである。その際に沖縄県支部がまだ組織されていないことから、琉球大学に出向き、卒業生を訪ね、辟雍会の説明をし、沖縄県支部の組織化を依頼してきた。

また、10月の末には千葉県の教育長を訪ねて、本学のこれまでの組織変更の話、卒業生の現状、教職大学院への教員派遣をお願いし、懇談会においては、卒業生を中心に本学への要求や教員採用の問題点等を伺ってきた。このように現在、全国の都道府県を回っており、その折には辟雍会のPRをかねて、組織されているところは感謝の言葉を伝え、組織されていないところには資料等を持って行き、組織化をお願いしており、卒業生が生き生きと交流できる良い環境作りをしていきたいと思っている。

東京学芸大学は、全国の教員養成系大学を引っ張って行くことを期待されているところがあるので、希望を持って進んで行くので、皆様方のご協力を願いたい。

4 荒尾禎秀顧問・元会長挨拶

もう10年少し前になるのだが、東京学芸大学に全国的な地域・職域なしの単一同窓会を立ち上げたのは、つい最近のような気がする。当時は問題点も多々あったが、その後の歴代会長の精力的な活躍とそれに応えてくれる卒業生の力があり、多数の支部ができ、会議にもこのように多くの方にお集まりいただいて、たいへんうれしい。

まだ組織されていない県も多い中で、今後10年間の課題として、当初から重要な課題であった教養系をはじめとした教職外の仕事についている方の組織化については、皆で力を合わせて会長の元で充実した会に発展して行ければと思う。

当初から、同窓会は何のためにあるのか、と言う議論があったが、大学が同窓会に何をしてくれるかではなく、大学に同窓会は何をできるのか、大学を支える会だと思いますので、その観点にそって色々な事業ができれば良いと思っている。今日は色々な地域の活動内容や困難について意見交換をしていただき、次のステップに移れる良い機会になればと思う。

5 高橋武郎一般社団法人東京学芸大学同窓会副理事長挨拶

馬場俊一理事長が公務のため出席出来ず、懇親会には駆けつけられるが、代わって高橋がご挨拶申し上げます。

辟雍会全国代表者会議が、このように盛大に行われることを喜び、私共の東京都の教員を中心とした同窓会も、負けないように頑張っていきたいと思う。

私共の一般社団法人東京学芸大学同窓会は、会費を払っている会員だけでも現在 3,500 人を超える組織となっている。公益性を重んずる団体として、これまで以上に同窓会という内々の会だけではなく、オープンにして同窓生以外の教員に対しても、研修会などを開いて声をかけ、管理職の研修会や管理職養成の面接練習にも、オープンで参加してもらおう形に変わってきている。今後もその方向で頑張っていきたい。

同時にまた、本学の教員養成への支援として、採用試験にあたっては、私共の同窓会の方でも力添えさせていただき、少しでも採用が増えるように頑張っていきたい。辟雍会と東京学芸大学が益々の充実発展さを祈念している。

6 議事

(1) 辟雍会理事会報告について

鷲山会長から、配付資料 2「第 1 2 回辟雍会理事会日程」に基づき、以下により報告があり承認された。

(1) 役員の選出及び理事会の構成について

理事会資料 1「理事会構成員名簿」のとおり承認されました。

(2) 平成 2 5 年度事業報告及び辟雍会会費納入者数一覧について

理事会資料 2「平成 2 5 年度事業報告」及び

理事会資料 3「辟雍会会費納入者数一覧」により報告されました。

(3) 平成 2 5 年度収支決算書について

理事会資料 4「平成 2 5 年度収支決算書」のとおり承認されました。

(4) 平成 2 5 年度会計監査について

理事会資料 5「平成 2 5 年度会計監査報告書」により報告されました。

(5) 平成 2 6 年度事業計画について

理事会資料 6「平成 2 6 年度事業計画」のとおり承認されました。

(6) 平成 2 6 年度収支予算書について

理事会資料 7「平成 2 6 年度収支予算書」のとおり承認されました。

(7) 東京学芸大学辟雍会の支部に関する規則の一部改正（案）について

理事会資料 8「東京学芸大学辟雍会の支部に関する規則の一部改正」のとおり承認されました。

(8) 支部の設置について

理事会資料 9「辟雍会佐賀県支部規約」について、支部に関する規則に則り佐賀支部の設置が承認されました。

(2) 支部の設置について

鷺山会長から、配付資料3「東京学芸大学辟雍会栃木県支部規約(案)」及び配付資料4「辟雍会熊本県支部(熊本辟雍会)規約(案)」に基づき説明があり、柏瀬栃木県代表から補足説明があり、会費の負担についてどのような方法が良いかの質問があり、活動しやすい方法で支部毎に考えて行くことが最良と思われるとの見解が示され、支部の設置は承認された。

(3) 辟雍会2015(平成27)年度日程(案)について

佐藤会計部長から、配付資料5「辟雍会2015(平成27)年度日程(案)」に基づき説明があり、承認された。

(4) その他

鷺山会長から、来年の5月末頃に卒業生と在学生在が一堂に会する総会的企画について、これから検討して行きたいことの発案があり、アイデア等の要請があった。

7 2014(平成26)年度各部活動報告について

配付資料6「2014(平成26)年度各部活動報告」に基づき佐藤会計部長、小澤広報部長、二宮組織部長、小森事業部長から報告があった。

増田理事から事業部の企業就職対策講座の内容について質問があり、鷺山会長から、企業就職が内定している4年生が中心となり、卒業生も講師として招き、現3年生が対象となる講座を、辟雍会として3・4年生を支援することで開催した経緯について説明があり、大学の就職対策とうまく連携がとれて実施できることを希望し、了承された。

8 代表者報告

鶴丸泰生北海道代表・・・支部設立から6年目を迎えたが、当初、平成初めの頃に北海道会を作りたいと名簿を作っておいたことが、設立時に大変役立った。総会は毎年夏に開き、会員は70名程いるが、実際の参加者は15名位であり、本部会員は16名である。支部会員を増やすことと、本部会員への誘いも、連絡に入れながら案内を出し、総会には半分位は参加して貰いたいところだが、広い北海道なので、増やすことも集まることもなかなか難しく、総会出席者と懇談しながら案内を行っている現状である。北海道支部としては、栗山日本ハム監督の背後からの大きな力にも頼りながら、どのような活動を続けて行けるのか、今後の課題である。会費は、支部会費としては集めないで、総会の会費から通信費等を捻出して運営している。

矢野政弦青森代表・・・青森県支部は、辟雍会支部の第1号として、平成15年にスタートした。現在支部会員は53名で、支部会費としては、平成22年から支部の形を整える必要から、200名位に働きかけを強め、会員として継続するかどうかの調査をして、希望する会員から年会費として1,200円を徴収しながら会を進めている。年2回の夏と冬に総会と懇親会を開いている。支部長以下支部会員共々辟雍会の発展に向けて協力を惜しまない姿勢で頑張っている。

柏瀬省五栃木代表・・・昨年の創立10周年の懇親会の折に鷺山会長から支部立上げの要請を受けて、大急ぎで準備を始めて、6月に立上げ総会を開き、設立の運びとなった。開催にあたっては1996年発行の名簿から、栃木県に在住の130名程を探し出して連絡し、意向を確認したところ、30名程の拒否と宛先不明がありましたが、100名程は残りましたので、その方達に趣旨を説明して立ち上げたい旨連絡を取った。単純な懇親会では駄目と

いうことから、地域の教育・文化・スポーツ支援をする団体としての一行を入れ、会費無しで役員等はボランティアでやっていただく趣旨で会を立ち上げることで、6月15日に15名程に集まっていたいただき、立上総会を開くことができた。その後は総会に出られなかった方々にも呼びかけて集まっていたいただきを考えているが、色々な事情により集まれる方は殆どいない状況で、そんな中で郵便料金もかさむので、連絡はメール中心にすることを基本に行っているが、メールアドレスが分かる方は会員が100名程いる中で30名程なので、これからももう少し連絡先を拡大できるように頑張りたい。

石井康雄千葉代表・・・千葉県支部では船橋を中心とした形で支部が起ちあがって、会員としては30名を超えたが、懇親会には中々参加がないものの、確実に輪は広がってきている。会員獲得は情報が無くてなかなか難しいところだが、最近になって同期の友人の協力を得ながら会員加入を進めてきている。最近懇親会に参加した若い教員と一緒にやりながら、力を合わせて支部を盛り上げて行きたい。

萱野政徳神奈川代表・・・まず11月15日に開催する第4回総会に寄せられた期待のメッセージが紹介された。横浜市、川崎市、横須賀市に存在する歴史ある会もあるので、こうした同窓会とどのように連携して神奈川県支部としてやっていくのかの難しさに悩みながら動いている。卒業して10年までの人たちは辟雍会に入っているのだが、総会に集まるまでになっていない。参加会員を増やしつていくのが神奈川県の今後の課題である。

木澤英二新潟代表・・・新潟支部は23年に設立して今年で4年目になり、会員の拡充を進めている。新潟市が中心になってスタートした関係で、県全体についてはそれぞれの地域に核がないので人数の掌握が出来ていない中で、全体として158人のリストを作って、総会参加を呼びかけている。年配の方はほとんど入らなくて、若い人にはメールで呼びかけて通信費を節約している。会費をとっていないので年1回の総会は教え子の店で開くなどして節約に努め、会費に回している。卒業生の授業参観には出来るだけ参加し、入会を呼びかけている。

勝田敏勝静岡代表・・・静岡辟雍会は2011年3月に設立され、現在の会員数は82名で、今年は8月23日（土）に総会と交流会を開き22名が参加した。会費は2,000円を取っているが、会員を増やすことと会費をどの様にして集めて行くかについて、頭を悩ましていることの報告があった。

宰相裕一岡山代表・・・一昨年1月設立から3年目になり、役員改選の時期を迎えたが、全員留任となった。会員数は60名程であるが、総会に来られるのは30名程で、1月に総会、5月末に懇親会を開いている。毎年同じ時期なので来られない方が多いので、来年からは日にちを少しずらして色々な方に来ていただける様にしたいと思っている。会員親族の冠婚葬祭に電報を送っているが、先輩方の寄付をプールして収入とし、会費は取らないで会計を成り立たせている。連絡については殆どメール配信で実施し、経費をかけずに工夫しながら今後も長く続けさせていただこうと思っている。

田中信也広島代表・・・広島県は2011年10月に設立された。毎年秋に総会と懇親会を開いており、集まるのは10名前後で、年配の方が多かったが、去年は20代の若者2人が参加し、懇親会で非常に喜んで帰ってくれたので、今年も続けて参加してくれるのではないかと

と期待している。会員は名簿上では30名～40名程の方に連絡が付きませんが、会費を取っていない関係で、本当に会員かどうか疑問のところもあり、今後はその辺を改善しながら、卒業生の方にたくさん入っていただき、新しく卒業してきてくれる方々の支援が出来る様な態勢になればと考えている。

宮地彌典高知代表・・・高知県支部は鷺山会長のドイツ語の教え子が一本釣りされ、それがきっかけで7～8年前に設立された。その前には、初代の会長になった山岡さんが、卒業生がどの位いるのか集ってみようとしたのが20年位前で、2回ほど集まり、それは途中で途切れてしまっていた。そこで新たに設立をということになり、40名程の参加で創立された。現在20名ほどが結集しているが、学校種以外の方の参加が少ないこと、校種の違う中で何をするのかなど、煮詰めが十分出来ていない点が多いので、会費も取りにくい現状がある。

何かあれば集まって交流を深めて行く段階が、今だに続いている。熱心な事務局長から一本釣りされて今年から会長を引き受けているが、まだ活動の全体をどうするか、広めるためには何ができるのか、何をするために集まって会費をとるのか、等々の煮詰めが必要な、と思いながら進めている。

小松原修佐賀代表・・・今年3月に佐賀県支部が発足し、現在10名位の会員がいますが、メディアの方が多く半分位は放送や新聞等で活躍している。きっかけは、熱気球に関係された卒業生の追悼バルーンを佐賀県で飛ばすために、学芸大学の卒業生を募って行ったところ、たまたま繋がっている人達が多くいて、辟雍会の話と重なったので、発足することになった。新しいところですので、これから他の支部に学びながら少しずつ大きくしていきたい。

八田明夫鹿児島代表・・・鹿児島大学の教育学部教員で懇親会をずっとやってきていましたが、3年位前に鷺山会長から同窓会立上げについて声がかかり、分かっている範囲で連絡を広げてスタートした。今年は8月に懇親会を行ったが、関係者と一部の方が参加する程度で、その後の広がりをしていくかが課題となっている。会費は集めないで懇親会の余りで色々な連絡を取り合っている。

9 増田金吾東京学芸大学理事・副学長挨拶

本日の会議では、会長から中身の濃いお話しを出していただき、そして議事の承認、各部の活動報告と、初めての参加ですので大変興味深く、最も興味深く聞かせていただいたのは代表者の方々の言葉で、代表の皆さん、お金の面だけではなく、ボランティア精神、愛校精神で、本当に苦労しつつ会を盛り立てておられることが良くわかり、大学としても出来ることはさせていただきたいと意を新たにしている。

最近の大学のことについてお話しすると、全国の教育委員会訪問を実施しており、何しに来たとの反応もありましたが、協力出来るところはさせていただき、就職のこともよろしくお祈りしますと、事情をよく説明し、分かって貰う行脚の旅をしている。この様な活動を通じて、教職に受かる人を広げて行きたい。ミッションとして要請されている教員就職率70パーセントを下らない線を確認することは大変なことであるが、各県の代表者の皆様のご協力もいただきながら、今後とも奮闘していくのでよろしくお願いしたい。

10 閉会の言葉

松村幹事長から閉会の言葉があった。